



「わが寺の活動を通して」

弘教寺住職 中山英昭

早いものです。私が住職を継ぎ、35年にやがてなろうとしています。年金をいただく年代になって、最近疲れを感じるようになってきました。それに比べ寺にやってくる門徒さん方は私よりも10歳前後は先輩ですが、元気に活動している姿をみますと、本当に頭が下がります。寺でのコンサートや講演会などに来られる演奏者や先生方は、一様に寺のスタッフの皆さんの動きを誉めて下さいます。門徒さん以外の方もお誉め下さることが多いのです。自主的に、積極的に動いている姿を見ることが見れば分かるのだと思います。寺を支えて下さっていることへの誇りを感じます。



壮年会、婦人会、子どもの集い、サークル活動(8サークル)を通して、年に170回以上の集まりを持っています。当然横のつながりがスムーズで、寺に来るのが楽しみと喜んで下さる方がたくさんいらっしゃいます。



第32号

発行所

T370-0131
伊勢崎市境米岡二七九二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話01270(七四)0五七三

以前書かせていただいたことがあります。門信徒の皆さんとの縁は、「葬儀」や「法事」といったつながりだけで、まさに「細い糸」のつながりというものが、寺院の現状です。浄土真宗という教団は、聞法教団です。宗祖親鸞聖人の念仏のみ教えを聞かせていただく場として各々の寺院が存在しているのです。寺院は門信徒の聞法の道場なのです。

しかし、どの寺々も今は法座に人を集めることに苦労しているのが実情です。

一つの要因としては、「核家族化」によって、親と子、孫がそれぞれ離れて生活するようになってしまいました。孫や子にみ教え等を伝えようにも、難しい家族状況がそこにあります。お仏壇に向かう姿を見せることができなない実情があるように思います。

もう一つの要因は、「豊かさ」だと思います。前住職の父がよくご法話で、「物で栄えて心で滅ぶ」ということを話していたことを思い出します。物の豊かさを追いながら、今日の日本の人々は確かに豊かになってきていると思います。

でも、豊かであるはずの日本の社会の中で、毎年3万人前後の自死者を生み、孤独死や生活困窮者の餓死者があります。

社会的弱者の高齢者(振り込め詐欺)や幼児・児童(虐待)が被害に合い苦しむ社会は決して豊かさがほんもの(真実)でないように思えてならないのです。

すべての人々の豊かさは、心の豊かさが満たされていく中にあるのではないのでしょうか。

個の豊かさは、家族そして隣人・友人へ、さらにそれは道行く人へと広がり、共鳴し合いながら、大きな広がりとなり、社会の本当の豊かさになっていくように思います。

浄土真宗は、仏法を聞かせていただく「聴聞」を旨とする教えです。寺はお念仏のおいわれや阿弥陀さまのご本願について聞かせていただく場があります。真実の豊かさを聞かせていただく場といつてよいと思います。

寺のさまざまな活動に参加していただき、寺が聴聞の場であることの思いを持っていただき、一人でも多くの方々が本堂に座し、仏法を聞いて下さることがあれば、有り難いことだと思います。

私自身諸先輩を見習いながら、あと何年活動を推めることができるか分かりませんが、多くの門信徒の皆さんが楽しく充実した日々を過ごしていただくために、より豊かに生きていくため寺のさまざまな活動を続けてまいります。やがて門信徒の皆さんが本堂に参つて下さることを願いつつ。 合掌



東京教区仏婦連盟一泊研修会報告

9月29日、30日と水上温泉「松乃井」で仏婦連盟の一泊研修会が開催されました。開催地が群馬で講師が前橋市清光寺坊守、藤岡市西蓮寺住職のお二人のお話なので弘教寺の仏婦としては初めて参加で坊守、野水会長以下8名で行ってきました。2日とも良いお天気に恵まれ車中は大賑わいでした。

1日目の講演は清光寺坊守。2日目は西蓮寺住職のお話で講題はNHK大河ドラマ「花燃ゆ」についてで初代群馬県令楫取素彦氏の妻、寿子様が群馬の地に浄土真宗をとの思いでご門主明如上人に訴え前橋城の敷地内に説教所を開き後の清光寺になったそうです。清光寺の境内にある松の木は前橋城内にあった物だそうです。歴史を感じます。



清光寺

寿子様の要請を受け、ご門主は小野島行薫師を山口県より群馬の地に派遣します。次いで藤岡市の西蓮寺の開祖となる艸香唯道師が同じ山口の地より来県し、やがて行薫師を助け群馬開教に力を尽くしたそうです。

私は、講師の先生が熱っぽく語って下さっても、気になる事がありませんでした。実はユカレリ(フラダンス同好会)が夜の懇親会でフラダンスを披露する事になって

まして、初めての参加で踊る人が6名では人の影で踊るわけにもいかず、間違わず踊らなくてはと緊張しました。でも本番では、懇親会が大いに盛り上がり、皆様に大変喜ばれほっとしました。

2日目はおあさじ(朝のお勤め)、仏教讃歌の指導、講演、閉会式の予定になっていました。仏教讃歌は南荘先生の指導で「恩徳讃」の旧譜と「超世の悲願」という親鸞聖人の御和讃を歌いました。



西蓮寺

何もかも初めての事で心配でしたが、何事も楽しく楽しい経験ができました(佐藤し)



第7期群馬組連続研修会が始まる

「連研(門徒推進員養成連続研修会)とは組内の各お寺に所属されている門信徒の方々が、お寺の境を越えて寄りあって話し合い法座を中心にして集う研修会」と本願寺出版社発行の「大乘」にあります。2年間で12回の連続して受講いただく研修で、群馬組では第7期連研が10月3日に始まりました。弘教寺からは中野俊和様、根岸定明様、泉昌子様、清水光子様の4名が参加されております。

連研の意味は、話し合うさまざまな問いを受けとめ、「自分の問題や社会の課題を考える中で、心豊かに生きる道を求め続ける」とにあり、仏教や浄土真宗の知識を教わることに目的ではなく、テーマの正解もありません。皆さんには、12回の「話し合い法座」では自分の思いや体験を語る場に挑戦していただきたいと願っております。(橋本ま)

第7期連研のテーマです、ご参考に！

回	テーマ
1	私にとって幸せとは何でしょう
2	葬儀や法事は何のためにするのですか
3	お墓は何のためにあるの
4	仏壇は何のためにあるの
5	老いて亡くなる事が受け入れられない
6	勤式・作法 浄土真宗のQ&A
7	お寺は何のためにあるの
8	御同朋の社会とはどんな社会なの
9	念仏とは、仏になるとは
10	お浄土とは何ですか
11	社会問題・平和問題
12	この連研を通して・修了式

弘教寺仏仕・仏婦の合同研修旅行

旅行は楽しい。恵まれた出会いがあれば、更に思い出は強く、忘れることなく残ります。瀬波温泉大観荘の露天風呂から、晴天の日本海に沈む夕日を仲間と一緒に見ました。めったにない機会に恵まれたことは喜びでした。研修旅行は11月4～5日で31名の参加者と一緒に新潟県村上瀬波方面のバス旅行です。初日は、早朝にお寺を出発、最初の訪問先本願寺新潟別院、本堂でお勤めし別院の説明を受けました。昼食後は豪農「渡邊邸」を見学、鮭の博物館「イヨボヤ会館」と鮭の専門店「永徳」に立ち寄って宿泊先の大観荘には早めに着きました。宿の露天風呂に入浴です。夕食の宴会はまだまだ若いユカレリの皆さんのフラダンスと、参加者の皆さんのカラオケで盛り上がり楽しさは倍増です。

2日目は、岩船港、会津若松での土産の買いものツアーです。爆買いも目立ちます。



二日間とも好天候に恵まれ、見学先や昼食などのご住職と根岸さんの気配り、段取りをいただき弘教寺旅行の楽しさを実感しました。参加して良かったです。

(徳丸て)

群馬組ビハーラ法話会 (若宮苑)

10月7日高崎市上大類病院若宮苑(介護リハビリ施設)のビハーラ法話会に参加しました。ご住職方4名で彼岸会のお勤め、清光寺若住職様のご法話と続き、アトラクションとして弘教寺コーラス同好会アザレアの15名が入所されている皆様とご一緒に歌って来ました。

「カエルの合唱」「大きな古時計」「のんのさま」三曲の発表の後、童謡唱歌集からリクエストをいただきアザレアのメンバーが入所の方々の中に入って楽しく歌いました。

会場の皆様が、とてもうれしそうにニコニコ顔で歌ってくださいさり私達まですっかり和やかな雰囲気になって歌いました。

私にはご挨拶の役目があり、練習の時は上手にできず不安でした。でも、この時、斜め最前列の車椅子のおばあちゃんが、最初から優しい目で私を見つめ言葉にうなずき、私をすっかり落ち着かせてくださいました。

歌の持つ不思議な力を感じ、「阿弥陀さまが寄り添ってくださったのかしら。」と思ううれしい時を過ごしました。



歌の持つ不思議な力を感じ、「阿弥陀さまが寄り添ってくださったのかしら。」と思ううれしい時を過ごしました。

(玉田み)

北枕きたまくらについて

お亡くなりになった方があった時、ご遺体を「北枕」にしてご安置します。これは、お釈迦様がお亡くなりになられた折り、頭北面西すほくめんといつて、頭を北にし、顔は西を向かれて往生されたことにあやかり、「北枕」が定着したようです。

遺族の「故人が無事成仏してほしい。」という願いの中から生まれたことを思いますと、尊いならわしであると思います。

「北枕」を縁起でもないと思ってしまうのではなく、送り出す人達の願いから出たものと考えるとき、違った意味合いで受け取られるのではないのでしょうか。

(住職)

コンサートダーナ募金報告

瀬越先生のコンサートでのダーナ募金は皆さんのご協力で83,609円でした。教区弘教婦人会ダーナ募金に送金しました。

第22回弘教寺ゴルフコンペ

10月13日安中ローズベイカントリークラブにおいて、秋晴れのこれ以上ないようなゴルフ日和のもと、30名が参加し開催されました。

腕を競い親睦を深めながらプレーをし、今回は五十嵐正男さんがネット56の好スコアで優勝カップを手に入れました。

(栗原ま)



光る泥だんご、光る笑顔 十月の子供の集い

まずは、住職の「法話」
心の中の「三つのぼんごう」・・・がつがつ「食欲」、イライラ「瞋恚」、ぶつぶつ「愚痴」を持つ身ですというお話をしてくれました。

それから、参加者22名と父母の皆さんが泥だんごに挑戦。マリンプルー色を付けてもらった人が12名も！泥だんごのできが最上級、ピツカピカでした。その後は、子供たちの手で切った野菜を煮込んだカレーライスを食べ、「おいしいね。」と一休み。



いよいよお誕生会。7・8・9・10月生まれの子供たちが主役です。皆で「お誕生の歌」を歌って11名のお誕生を祝い、住職から贈り物ももらいます。今回は、4つの窪みがある「おだんご皿」です。一生懸命作った泥だんごを大事に飾って欲しいです。喜ぶ笑顔、はにかむ笑顔、「おめでとう。」と祝う笑顔がいっぱいの本堂です。ほとけさまの前の子供たちは、「煩惱」に無縁のように見えました。

(坊守)

この人 岡部和彦さん 大泉町

京都の熱心な浄土真宗のご家庭の生まれで、大泉町文化協会会長をされています岡部和彦さんは、奥様、娘様との3人での暮らしです。大学を卒業され当時の主力製品が輸出であった東京三洋に、勤められ海外などのお客様への文化接待と、育った家庭での影響から邦楽に関わりを持たれたそうです。

大泉町文化協会は本年の6月に文化むらホールで第44回芸能展示発表会を開きました。戦後の「小泉町」から「大泉町」になった時に、協会として発足しており歴史は60年になるとのことです。発表会は毎回テーマを決めて行っています。今年は「今伝えたいこと」を統一テーマとし、所属の各会は伝えたい内容を練って発表されました。来年は「よるこび」をテーマに掲げ、演目や作品作りの準備を始めております。

また文化的豊かさの重要性から、大泉町社会教育委員長時代に「心を育てるルールブック『クレド君といっしょに』」を町内全校生徒に配布され、定着に向け現在もプロジェクトを組んで続ける努力をされています。

弘教寺とは、平成3年に息子さん亡くなり檀徒となられ、その後2回程の邦楽の演奏を寺でされたそうです。



今も多くの要職にありますが、奥様も箏の先生をされておられ、お二人でこれからの地域文化発展のご活躍が楽しみです。

(橋本ま)

◆ 行事予定 ◆ (平成27年12月 ~ 平成28年3月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
12月	5~6日	報恩講法要・コンサート(黒崎 唯香)		
	13日	仏壮例会・忘年会		
	15日	弘教寺忘年コンサート		
	18日	仏婦例会(11日:忘年会)	19日	組連研(2回) 覚法寺
	23日	子どもの集い		
1月	1日	元旦会		
	22日	仏婦例会・新年会	10~16日	御正忌報恩講法要
	26日	役員新年会		
2月	6日	子どもの集い		
	7日	仏壮例会	13日	組連研(3回) 敬西寺
	19日	仏婦例会	18日	組ビハラ(若宮苑 涅槃会)
			21~22日	教区仏壮記念日一泊研修
3月			1日	教区仏婦連盟一日研修
	25日	仏婦例会	17~23日	春彼岸

※ 編集後記 ※

昨今の話題はマンションの不正建築であったり、老人をあざむく振り込み詐欺事件などがあり、人間の心に潜む悪魔が人を騙します。この「つつじ寺だより」を門信徒の皆様がお読みになる頃には、マイナンバーの通知がお手元に届いていると思えますが、一度交付を受けたマイナンバーは一生変わらないので大切に扱いたいものです。誰に聞かれても教えないというのが、最大にして唯一の自衛策でしょう。群馬県・市町村などの行政機関が直接電話などで個人情報聞く事はないとの事です。(注意を！)

(西ま)

特別寄稿

感謝をこめて

潮越 高

弘教寺のコンサートについて、

長い歳月に及んで企画と演奏を担当させて頂きました。幾多のコンサートを無事に成し遂げられたのは、ひとえにご住職をはじめとする皆様方の並々ならないご厚意の賜物と、心から感謝申し上げます。

そして去る10月17日の催しについても、私の我儘をご理解頂き、私の希望通りの構成で進行をさせて頂いたことなど、格別なご配慮を賜り、まさに音楽家名利につきる有り方を実践させて頂きました。私事にて恐縮ですが、この度はプロとアマの境界を問うことなく、純粹に心を通わせ合える友人と共に演奏できたことで、極めて



心地よい時間的空間を享受させて頂きました。突き詰めれば、私が予てより理想としていた『人と音楽の純なる関わり』について再認識をし、まさしく音楽人生の幸いを噛み締めさせて頂きました。

弘教寺とのお付き合いは、大方30年余りとなりましうか。法事などでお世話になった前橋市清光寺さまからのご紹介で、婦人会でのチェロのソロコンサートに伺ったのが、切っ掛けだったと記憶しています。その後ご住職よりご高配を賜り、多くのコンサートを手掛けさせて頂くようになりましたが、名称を『お寺deコンサート』と改め仕切り直しをして以来も、10数年に及び企画を担当させて頂きました。これも今回で8回目を迎え、ご住職から「報恩講では最終回！」とのお言葉を伺い、まさに感無量となりました。月日の経つのは早いもの、気が付けば私も齢68。実にアツという間のことのように感じられます。

今、これまでのコンサートのことをつらつら思い起こせば、企画構成に当たって直面する編曲作業のことが浮かび上がります。日時が決まり楽器編成が決まりメンバーが決まり曲目が決まると、兎にも角にも逃れられないのは編曲作業です。この編曲という分野はかなり厄介なもので、その都度悩まされることになりました。果たして皆様の共感を得られるだろうか、また皆様のお心に響く音楽を提示し得るだろうか・・・いつもそんなことを脳裏に描きながら取り組んで参りました。この微量な能力を振り絞って、それなりに様々な試みを行って参りました。書けば書くほど疑問が湧いてくるので、こまめに修正を施したり、時には一度完成させたものを全部消去

して一からやり直したこともございました。しかし、この苦労はいつしか喜びに繋がりに、最終的には私にとつて掛け替えない糧となったことは言うまでもございません。



私の音楽人生、22歳で渡欧してから今日に至って46年となります。できることなら70歳まで現役で演奏したかったのですが、演奏というものは身体の老化に比例してまいりますから、技術的衰えを隠し切れなくなってしまう。残念ですが、物事には潮時というものもあり、やはり現実を受け入れるしかございません。

弘教寺におかれましては、たとえ『お寺deコンサート』が一区切りしたとしても、今後ご住職を中心にして新たな形でのコンサートが生み出されることを願っています。

皆様方のご健康とご発展を心からご祈念申し上げます。感謝の言葉とさせて頂きます。

心安らぐ一時をありがとうございました。初めて参加させていただきましたが、来てよかったなあと思います。チェロの優しい響きに包まれてとても幸せでした。解説があったので、私にも曲について分かりました。本当に今日は来てよかったです。おしゃべりもとても楽しかったです。ありがとうございました。

詩集有難うございました。秋の夜長、ゆっくり読んでみます。(I)

素晴らしい演奏に魅せられ、只々感動したばかりです。最初朗読に合わせた曲も演奏者の温かい大らかなやさしい人柄と共に聞く事が出来、この上なく幸せなひとときでした。まだまだ続けて欲しいと思います。



いつもすばらしい時間を与えていただき有難うございます。日頃このような機会がなく楽しみにしていましたが、最後となると寂しいです。

夢のような時間があつ!!という間に過ぎてしまいました。瀬越先生ありがとう!!

楽しくきかせていただきました。集大成などといわずに又お会いできる事を楽しみに致しておりますので…。気負わないやさしい音色に好感がもて心がやさしい気持ちになりました。



♪皆さんの声♪

「朗読付き」心に響き、よかったです。チェロの音、心にしみました。特に、本堂で聞くのは格別でした。とても落ち着けました。(J)

瀬越先生のファイナル演奏会。寂しいです。折りがあれば又、おききたいと思います。今プログラムの中休みですが、最初の三つの手紙「親愛なる子供達へ」朗読に私の年齢と重ねて涙ぐんでしまいました。三つずつの構成はとても素晴らしい企画でした。ありがとうございました。

先生の「すみれ」CDで聞いていますが、今一度、生演奏で聴きとうございました。(M)

とても良かったです。いろんなユニット(組み合わせ)が聞けました。ソロは勿論素晴らしいのですが、二重奏やプラスピアノがとても良かったです。先生をしていらっしやっただけでチェリストは熱演でしたね。お顔に似合わない美しいメロディー(演奏)でした。

瀬越さんにはまだまだずっと頑張ってもらいたいですね。“語り”が入るのも新鮮でとても良いものでした。

アンコールは見事!!(K)

お誘いありがとうございました。チェロとピアノの音色が心にしみてきました。「親愛なる子どもたちへ」の詩と曲を聴き、涙が出てきてしまいました。参加できて良かったです。(T)